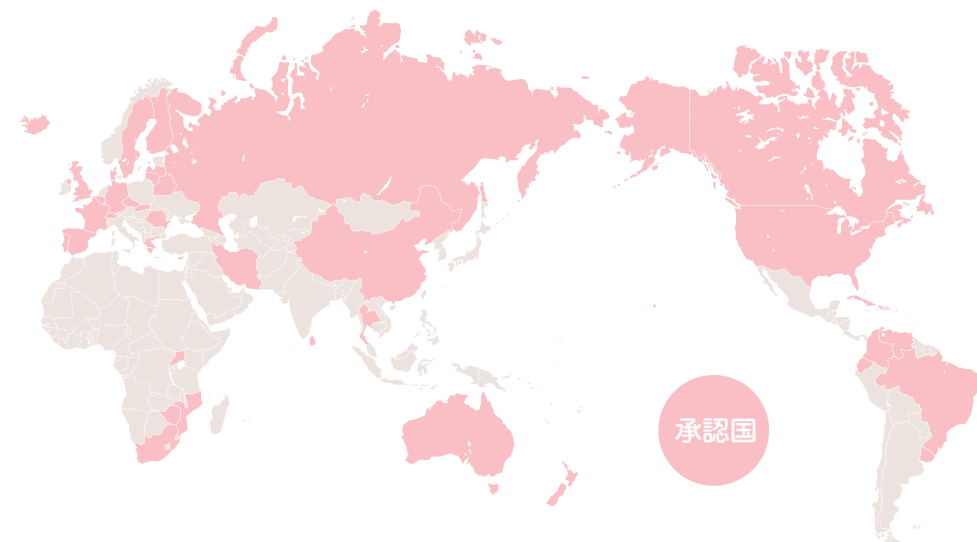




## 法律や条令、政府が 手話を認めている国と地域

手話を承認している国と地域は、年々増えています。



アイスランド	キューバ	チェコ共和国	ベルギー王国
アメリカ	ギリシャ	中国	ポルトガル
イギリス	コロンビア	デンマーク	南アフリカ共和国
イラン	ジンバブエ	ドイツ	モザンビーク
ウガンダ	スイス連邦	ニュージーランド*	モーリシャス
ウルグアイ	スウェーデン	フィンランド*	ラトビア
エクアドル共和国	スペイン	ブラジル	リトアニア
オーストラリア	スリランカ	フランス	ルーマニア
カナダ	スロバキア共和国	ベネズエラ	ロシア連邦
キプロス	タイ	ベラルーシ	

世界ろう連盟 ファクトシートより

# 聞こえない赤ちゃんの 楽しい子育て

プラスの力をもつ素晴らしい  
子どもたち



赤ちゃんが聞こえない・聞こえにくいと診断された親御さんへ  
聞こえない・聞こえにくいことは、不幸でも不便でもありません！  
それどころか、聞こえる人には想像もできないほどの優れた目をもっています。  
赤ちゃんをありのまま受け止めて、楽しい子育てをしましょう。

全国ろう児をもつ親の会

全国ろう児をもつ親の会

〒100-8691 郵便事業株式会社 銀座支店 郵便私書箱70号 FAX:03-3761-9905  
[http://www.hat.hi-ho.ne.jp/at\\_home/](http://www.hat.hi-ho.ne.jp/at_home/)

●この冊子は、2007年度財団法人俱進会の特別助成を受けて作成しました。

## はじめに

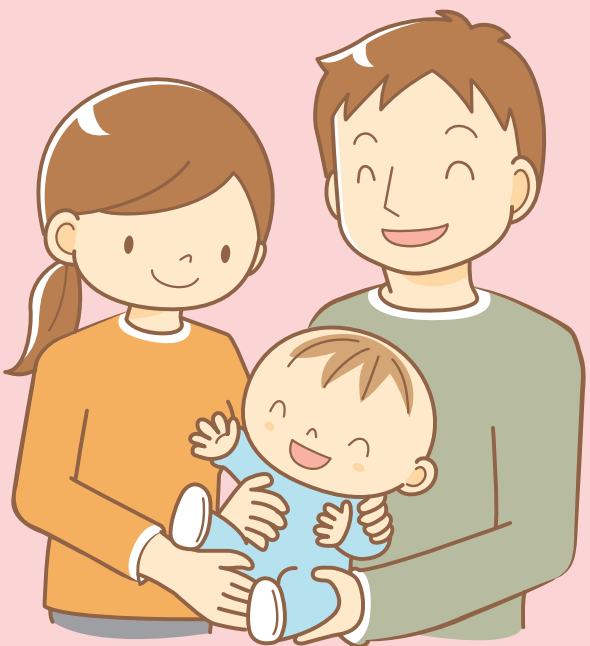
この冊子を手にとったあなたは、お母さんですか？お父さんですか？それとも、おじいちゃん、おばあちゃんでしょうか？病院で、赤ちゃんが聞こえない・聞こえにくいと診断されて、不安になっていらつしやることでしょう。でも、大丈夫です！私たちも何年か前に、みなさんのように驚きや悲しみを経験しましたが、それは取るに足らない心配だったとわかりました。聞こえない赤ちゃんは、聞こえる子と同じようにすくすくと育ち、可愛びいっぱい、たくましく成長して行きます。それをお伝えしたくて、この冊子をつくりました。

聞こえない赤ちゃんの育て方について、もう資料をお持ちですか？資料になると思います。なぜなら、ろう者のみなさんが受けてきた聴覚障害児教育と、ここでご紹介する教育や価値観は大きく違うからです。ひとつの考え方として、また新しい教育として、参考にしてみてください。

文中に「ろう者・ろう児」という言葉が登場します。医学的には「91dB以上の最重度難聴」のことを「ろう」と呼びますが、私たちは聴力(dB)の程度に関係なく『日本手話を母語として自信をもって生きている聞こえない・聞こえにくい人』のことを『ろう者・ろう児』と呼んでいます。そして、聞こえる人のことは「聴者・聴児」と呼びます。※日本手話についてはのべページをご覧ください。

は、病院・役所・福祉センター・ろう学校・ことばの教室などに置いてあります。そこには次のようなことが書いてあるでしょう。「聞こえない子は、このままでは言葉が育たないので補聴器をつけて、聞く訓練と話す訓練をしましょう。人工内耳を埋め込む手術をすることもできます」。これは「聞く・話す」を基本にしたろう教育に沿ったものです。そこで、この冊子では、他では紹介されていない「手話での子育て」について、メリットだけでなくデメリットも含めて、詳しくご紹介したいと思います。

聞こえない子は、およそ一千人に一人生まれると言われています。そして、その親の90%が聞こえる人です。この冊子は聞こえる親御さんを対象に情報提供をしていますが、ろうの両親、祖父母の方がお読みになっても参考に



# Contents

はじめに	1
聞こえないって悲しいこと	5
聞こえない子はブラスの力をもつ子ども	5
赤ちゃんはたくさんの大人に守られています	6
一番大切な大人たち	6
お子さんの世界に近づいてみましょう	7
手話で育てると、どういこと	7
手話だけでは社会に出てから困るのでは	7
手話で育てると何がいいの	8
手話で育てるデメリットは	8
ろうの赤ちゃんの子育てで大切なことは	9
手話は二種類あります！	9
手話は大人になってから覚えてもいいのでは	10
聴覚口話法（ちょうかくこうわほう）ってなに	10
人工内耳をすれば聞こえる人になる	11
手話も口話も、両方できるのがいい	11
日本のろう学校でバイリンガルろう教育を行っているの	12
お父さんへ	12
おわりに	13
ろう児の乳児相談や子育て情報を提供している団体	13
ろう者や手話に関するインターネット情報	13
推薦図書	14
全国ろう児をもつ親の会 発行図書	14
手話を認めている国と地域	裏表紙



illustration \* わたなべ ふみ

本文中の「※」は参考資料です。より詳しくお知りになりたい場合は巻末の推薦図書及び親の会発行図書をご覧ください。

## 聞こえないって 悲しいんだよ

両親が聴者（聞こえる人）の場合、赤ちゃんが「聞こえない・聞こえにくい」ということに悲観的になりがちです。それは『いま、自分が突然聞こえなくなったら…』と想像して、それをお子さんに当てはめてしまうからです。しかし、もう少し想像の幅を広げてみてください。あなたの赤ちゃんは聞こえる生活を経験していません。つまり、『聞こえないことがフツー』なのです。それは、生まれつき聞こえる人にとって『聞こえることがフツー』であるのと同じです。耳が不自由なのではありません。聞こえないだけです。ですから、ろう者自身は聞こえないことを不幸とか不自由などと思っていないのです。

ろうの赤ちゃんは、聞くことではなく、見ることで周囲からいろんな情報を吸収しています。人の顔や動き、物の位置関係、色や形、光や影など、その「見る力」「見分ける力」は、聴者よりも優れていると言っています。

私たちは障害者ではありません。日本人だけでなく日本語ではなく日本語で話をする“ろう者”です。日本の中の言語的少数派です」と宣言（ろう文化宣言）しました。これはすでに欧米をはじめ多くの国で考えられていることですが、日本では一部のろう者以外には受け入れられませんでした。その後、この考え方を大いに歓迎したのが、ろう児をもつ親たちでした。「自分の子どもは聞こえない可哀そうな子ではない。優れた目力をもつ子どもなんだ！」と。自分の子どもを「プラスの力をもつ子」として受け入れた途端、ろう児の子育ては、これまでのような辛く悲しいものではなく、明るく楽しいものへと変わります。

### ひいひい

一番大切なことは お子さんを あじ  
のまの姿で受け止めることです  
聞こえないことは 悪いことではあり  
ません  
あなたのお子さんは 悲しい子でも不  
憫な子でもありません  
お父さんやお母さんは ちよっと違  
うかも知れませんが  
優れた目力をもつ すばらしいおやめ  
んです

私、聞こえませんが  
それが何か？



## 聞こえない子は プラスの力をもつ子ども

お子さんを「優れた目をもつ子（プラスの力をもつ子）」として受け入れるか、「聞こえない子（マイナスの面をもつ子）」として受け入れるか、親御さんの受け取り方ひとつで、子育てが楽しいものにも辛いものにもなります。それは、お子さんの長い人生を左右することにもなります。これまで、聞こえない子を「プラスの力をもつ子」とする考え方はありませんでした。一九九五年に手話言語学を研究しているろう者が「私

## 赤ちゃんはたくさん 大人に守られています

ろうの子どもの周囲には、何人もの大人がいます。ご両親、祖父母、医師、教師…大人たちは、それぞれ違った役割をもっています。ご両親は、子どもに十分な愛情を注ぎ、子どもの全人格を育てていきます。おじいちゃん、おばあちゃんは、ご両親の応援者といったところでしょか。医師は病気や障害を治す立場の人ですから、お子さんの聴力を回復させることに集中して考えます。言語聴覚士（ST）は、お子さんの「聞く・話す」力をつけることを中心に考えます。教師は、「学力」をつけさせるためにどうすればいいかを考えます。では、ろう児と一番長く関わるのは誰でしょうか？医師は医療の範囲、教師は学校を卒業するまでの付き合いです。ろう児が社会に出てどう生きていくのか？どう自分と向き合い、社会とかわっていくのか？それを見届けるのは私たち親なのです。

## 一番大切な大人たち

実は、ろうの子どもの周囲には、もうひとつ最も大切な大人たちがいます。それは「ろう者」です。聞こえない子は、ろう学校を卒業しても、一般校を卒業しても、最終的には「ろう社会」に帰属します。それは、お子さんにとって生き方そのものに直結するとても大切な社会です。「自分の子どもをろう社会に入れるのはいやだ」という親御さんもとどきいますが、子どもの人生は子どものモノです。いずれ親もとを巣立っていきます。いつまでも親を頼るようでは困りますよね。そのとき、聞こえない子の心を支えるのが「ろう社会（ろう）」「コミュニティ」なんです。ろう児の明るい未来は「ろう社会」なしに語ることはできません。みなさんが頼りにする病院や通園施設や学校で、ろう者や日本手話に関する情報提供がないとしたら、それは、お子さんの将来を本気で考えている機関とは言い難いかもしれません。ろう者や手話に対して否定的な先入観を与えるような意見を言ったり、「聞こえ」に関する情報はかきとるより、

お子さんが振り返って困るといっことはありませんか？聞こえない子どもたちは、自分に備わった「見る力」という優れた能力を知っていて、周囲を余すことなく見よう！としてそういう動きをするようです。ただし、これは医学的に検証されているわけではありません。なぜなら、医学というのは欠損しているところ（聴覚）を治すことが目標であり、ろう児の得意な分野（視覚）の研究はしていないからです。でも、ろう児の保護者の声を集めたところ、大半のお母さんが「おんぶをして、だっこをしても、頭を反り返して困った」と答えています。





ろう者やろう児、日本手話に触れる機会や資料を提供してくれるような機関をおすすめします。保護者にアドバイスをする立場の人は、正しい情報を提供し、お父さんお母さんが判断を見誤らないようにすることが最低限の仕事です。

## お子さんの世界に近づいてみましょう

あなたは、お子さんとのように向き合っていますか？お子さんを聞こえる世界に近づけるか、あなたが努力してお子さんの世界に近づくか？ぜひ、お子さんの世界に近づいてみてください。聞こえない子が自然に身につけることができる言語は手話だけです。聴者が「手話」を学ぶことは容易ではありませんが、親御さんには必ずできます。少し前まで、「親が習った手話で聞こえない子を育てるのは不可能」と当然のように言われていましたが、今ではたくさん親子がろう者の言語である「日本手話」で楽しい子育てをしています。つまり専門家や教育者より、親たちの方が柔軟性があり先駆的だったといえるようです。

## 手話で育てると、 づいづい上手

ろうの赤ちゃんに話しかけるときや、ろうの赤ちゃんの前で会話をするとき、日本語ではなく手話で話をするだけで、日本語では聞こえない赤ちゃんに声で話しかけます。すると、赤ちゃんはそれを真似て声を出し、やがて「マンマ」「ワンワン」「ブーブー」などと幼児語で話すようになります。一方、ろう者のお母さんは聞こえない赤ちゃんに手話で話しかけます。赤ちゃんはその手話をじっと見てまねをして、小さな手を動かして手話の幼児語で話すようになります。

しかし、たいいていの親は手話を知りませんね。ご両親は、まず手話を学ぶところからスタートになりますが、それはありません。将来、お子さんと手話で楽しく話しをする姿を想像しながらゆとりと学んで大丈夫です。そして、ろう児やろう者が集まる場所に赤ちゃんを連れて行ってあげてください。そこでは、みんなが手話で話しています。赤ちゃんにも手話で話しかけてくれます。親御さんが「手話を学びたい」

## 手話で育てると、 何がいろいろ

ひとことで言うと「聞こえる子と同じように会話を楽しめる」ということです。兄弟姉妹も自然に手話で会話ができるようになります。例えば、公園でアリを見つけたら「アリの家の家はどこかな？」アリの家の家は穴なんだね」「兄弟がたくさんいるよ。お父さんとお母さんは穴の中かなあ？」「アリさんは力もちだね」と、いわゆるフツの親子の会話ができるのです。三歳なら三歳の子らしい話題で、冗談や口げんかなども含めて豊かな会話ができます。また、聞こえない子どもの前では、お父さんとお母さんの会話も手話にするより良い親子関係が築けると思います。聞こえる子どもが、お父さんとお母さんの会話を耳にしながら大きくなるのと同じ状態にするわけです。両親がどんな話をしているのかを知ること、子どもは安心しますし、その話からたくさん学ぶことができます。 ※「聴覚障害者の心理臨床」

たとえば、喜んで協力してくれるでしょう。実際にそうやって手話を覚えていった親子が何組もいます。人間が自然に覚えて、自由に使いこなすことができる言語のことを「母語」(ぼご)と言います。聞こえる赤ちゃんの場合は日本語が母語ですが、聞こえない赤ちゃんが自然に覚えることができるのは手話だけです。ですから、聞こえない赤ちゃんには手話を見せてあげることが必要なのです。

## 手話だけでは社会に出るから困るのでは？

そのとおりです。「手話だけでいい」というわけではありません。日本で暮らすのですから、もちろん日本語も必要です。学校生活でも、教科書の日本語がわからなければ学力はつきませんよね。その日本語の力をつけるために、土台となる母語が大切なのです。母語の手話がしっかりしていれば、二つ目の言語として日本語の力もついていきます。手話が十分に発達していないと、日本語も伸びません。(母語は、言語面だけでなく、その人の人格全体を支えるもので

## 手話で育てると、 デメリットは？

聞こえる親御さんは、手話を覚えなければいけないことを負担に感じるかもしれません。お子さんをろう児やろう者のいる場所に連れて行くのも手間がかかります。でも、これをデメリットと考えるかどうかは親御さん次第です。最初のうちは負担に感じるかも知れませんが、親子で少しずつ手話で会話ができるようになると、きつと喜びのほうが大きくなると思います。いま、手話でろう児を育てている

親御さんは、みんな「子育てがサイコーに楽しい！」「子どもの手話がどんどん上達する様子が誇らしい」と言っています。

※「ろうこ  
そろうの赤  
ちゃご」



## ろうの赤ちゃんの子育てで大切なことは？

聞こえない赤ちゃんには、「一にも二にも「アイ・コンタクト」、つまり目を合わせる」ことです。赤ちゃんが目が合っている状態で、あやしたり手話で話しかけたりするよう心がけてください。抱き上げるときは背後からではなく、まず顔を見せてからにします。そばを離れるときは、黙って



いなくなるのではなく「トイ」に行ってくるよ」「台所に行くね」などと伝えてから行動してください。それを繰り返すうちに、「お母さんはまた戻ってくる」とか、「今は台所にいる」ということがわかるようになりますから、お子さんは安心していられます。これは、まだ手話がわからない赤ちゃんに対しても同じです。聞こえる子どもの子育てでも、お母さんは言葉がわからない赤ちゃんにいろいと話しかけますよね。ろうの赤ちゃんにも同じように手話で話しかけてあげてください。

聞こえない赤ちゃんには、「一にも二にも「アイ・コンタクト」、つまり目を合わせる」ことです。赤ちゃんが目が合っている状態で、あやしたり手話で話しかけたりするよう心がけてください。抱き上げるときは背後からではなく、まず顔を見せてからにします。そばを離れるときは、黙っていなくなるのではなく「トイ」に行ってくるよ」「台所に行くね」などと伝えてから行動してください。それを繰り返すうちに、「お母さんはまた戻ってくる」とか、「今は台所にいる」ということがわかるようになりますから、お子さんは安心していられます。これは、まだ手話がわからない赤ちゃんに対しても同じです。聞こえる子どもの子育てでも、お母さんは言葉がわからない赤ちゃんにいろいと話しかけますよね。ろうの赤ちゃんにも同じように手話で話しかけてあげてください。

## 手話は二種類あります！

日本で「手話」と呼ばれているものには二種類あります。

- ① 日本手話
- ② 手指日本語（日本語対応手話とか、手話つきスピーチなどと呼ばれることもあります）

①の日本手話は、ろう者の言語で、日本語とは異なる文法・構造をもつ独自の言語です。これは、ろう児が自然に身につけることができる唯一の言語で、この冊子の中で「手話での子育て」の「手話」とはすべて日本手話のことです。

②の手指日本語は、聴者がつくったものです。日本語を話しながら、日本語の語順に沿って手話の単語を示します。声を出しながら手を動かすので、聞こえる人にとって分かりやすいことから、この手指日本語も「手話」と呼ばれて一般に広まりました。

手指日本語は、日本語を覚えてから失聴した中途失聴者や、大人になってから手話

## 手話は大人になってから覚えるでもいいのでは？

人間の赤ちゃんは、言葉を覚える能力をもって生まれてきて、自然に母語を身につけます。その能力が発揮されるのは何歳までか、ということが研究されているいろいろな説がありますが、五歳くらいからは少しずつ衰えると言えるようです。ですから、幼児期に母語を身につけられなかった場合、それを取り戻すことは大きくなればなるほど難しくなります。したがって、聞こえない赤ちゃんが母語を身につけるためには、生まれたときから日本手話で育てることが大切なことです。大人になってから日本手話を覚えても、母語として自由に使いこなせるようにはなりません。「母語」とは、言語面だけでなく、その人の人格全体を支えるものとして、私たちが生きていくうえでとても重要なものなのです。

## 聴覚口話法（ちょうかくご）ってなに？

昭和八年、文部省（当時）は全国のろう学校で手話を禁止し聴覚口話法の前身である「口話法」教育を行うよう訓告しました。（※「わが指のオーケストラ」昭和40年代に入ると補聴器が登場し、聴覚を活用して音声日本語（聞く・話す）の習得を目標とする「聴覚口話法」が行われるようになり、現在に至っています。聴覚口話法は、相手の口の動きを読み取る「読話」「くくわ」と口の形や発音器官を訓練する「発話」「補聴

## 「二種類の手話」



二種類の手話があるのは日本だけではなく、外国でも同じです。例えば、アメリカにはアメリカ手話と手指英語があり、フランスにはフランス手話と手指フランス語があります。日本では、その両方を「手話」と呼ぶ習慣があるため、誤解や混乱が生じています。

「じゃあ、聴者の親が日本手話を覚えるのも無理なのでは？」と思われるかもしれませんが、たしかに簡単ではありません。聴者の親は手話を母語として覚えるのでは

器を活用する「聴能(ちよつうのこ)」といった三つの要素によって、音声日本語を習得させようというものです。

昭和八年から75年間も続いているこの教育で、聞こえない子どもたちは話せるようになったのでしょうか？日本語を十分に習得できたのでしょうか？答えは残念ながら「ノー」です。子どもたちの多くは、一般社会に通用する「発語」も手話通訳を必要としない「読話」も高等教育に対応できるレベルの「日本語」習得も難しいのが現状です。ですから、ろう学校の先生たちは聞こえない子どもたちの学力向上に向けて日夜努力をされているのです。ただし、ごく少数ですが驚くほど上手に話せるようになる例もあります。しかし、ここで忘れてはいけないのが「話せても・聞こえない」「つまり」送信はできて受信は不完全」だということです。相手の声が聞こえても、聴者と同じ正確さで聞こえているわけではありません。話の内容が全部わかるのではなく、勘を働かせたり推測したりしながら判断しているのです。また、発音が上手な子に対しては、周囲の子どもも大人もその子が聞こえないことをつい忘れて、何の配慮もなく話してしまいます。そして「伝わった」と思ってしまう。

うまくいなくなる可能性が大きいからです。実際にそういう教育が行われたこともありましたが、期待した成果が上がらず失敗しています。

アメリカでは、一九六〇年代後半からトータル・コミュニケーション法という教育法が採用されました。それまでの聴覚口話法では教育効果が上がらなかったためです。この新しい教育法は、「一人一人の子どもにわかるコミュニケーション手段なら何でもいから、それを使って教育をしよう」というものでした。その手段とは、身振り、英語の話し言葉、書き言葉、手指英語(いくつもの種類が考案されました)、指文字、キユードスピーチ、アメリカ手話などです。この教育の結果について、約20年後に政府の委員会が全国的な調査をして、一九八八年に「失敗だった」という報告をしました。教育法を改善するよう勧告もしています。この失敗を受けて次に採用されたのが、アメリカ手話を母語(第一言語)、英語の読み書きを第二言語として教育するバイリンガル法です。

いるため、誤解が生じることがよくあります。つまり、上手に話したり発音したりすればするほど自分が不利になってしまう場合があるのです。そして何より、聴覚口話法を受けてきたろう者のほとんどが「辛く苦しい経験だった」と証言していることも聴者は真摯に受け止める必要があると思います。

(※)デファート絵本『手話で生きたい』

### 人工内耳をすれば聞こえる人になる!?

最近では、人工内耳の技術が向上し、一歳六カ月ほどで手術を勧められるようになりました。しかし、聞こえない子にとって人工内耳は「魔法の耳」ではありません。人工内耳をつけただけで聞こえる子になるわけではないのです。手術をした後に聴覚口話法の訓練を行っていくのです。小児人工内耳治療チームの医師も「不断の努力が必要。その努力を怠ると、きれいに話せて聞こえても教科学習に必要な国語力が伴わなくなる」とおっしゃっています。人工内耳の手術をするかどうかを決めるのは親御

### 日本のろう学校でバイリンガルろう教育を行ってING?

日本でバイリンガルろう教育を行っている学校は、一校しかありません。私立の明晴学園です。この学校は、「日本手話で教育をして欲しい」という保護者の要求が実を結び、二〇〇八年にバイリンガルろう教育の私立のろう学校として誕生しました。(※明晴学園)バイリンガルろう教育の基本は、教室内の共通言語が第一言語の「手話」であること、そして

て国語や英語と同様に「手話」も教科でなければなりません。したがって、「手話を使っている」「手話がある」という学校はトータル・コミュニケーション法です。



さんです。お子さんの一生にかかわることを、本人に代わって決めるのですから責任重大です。将来、お子さんの支えとなるであろうろう社会は人工内耳に抵抗感をもっているというのも事実です。プラス面だけでなくマイナス面についても慎重に検討してください。ご両親そろって医師やろう学校の先生、ろう者やろう児の保護者など、できるだけ多くの人から話を聞くことをおすすめします。そして、人工内耳を選択した場合でも、お子さんから手話を遠ざけないで欲しいと切に願います。ろう教育の先進国であるスウェーデンでは「人工内耳をした子どもでも、母語はスウェーデン手話」といわれているそうです。

### 手話も口話も、両方できるのがいい。

ろう学校に手話のコースと口話のコースの両方があるって、子どもに合うコースを選べるといふ意味なら、それが理想的です。しかし、一人の子どもに手話と口話の両方を教えるという意味なら、よく考える必要があります。子どもは混乱して言語発達が

### お父さんへ

お子さんが聞こえない・聞こえないと診断されて動揺しているのは、お母さんばかりではありません。お父さんだって同じですよ。必要以上に頑張らず、肩肘を張らず、泣きたいときは泣いて、不安なときは誰かに相談してください。そして、お父さんとお母さんが心をひとつにして、お子さんをありのまま受け止めて愛することができれば、お子さんはすくすくと育っていきます。ほとんどの家庭でお父さんと接する時間が長いお母さんの方が手話が上手になります。それなら、お父さんは情報を集める役になってはいかががでしょうか？パソコンや車を買うときに、パンフレットを集めたり試乗したりしますよね。どうぞ、ろう児の子育てや教育に関する資料を集めたり、見学に行ってみたりして下さい。きっと、他では体験できない、素晴らしい子育ての時間を過ごすことができますよ。










推薦図書

	<b>もうひとつの手話 ろう者の豊かな世界</b> 斉藤道夫 (晶文社)		<b>わが指のオーケストラ</b> 山本おさむ (秋田書店)
	<b>善意の仮面 聴能主義とろう文化の闘い</b> ハーラン・レイン著 長瀬修訳		<b>こどもはことばをからだで覚える</b> 正高信男 (中公新書)
	<b>聴覚障害者の心理臨床</b> 村瀬嘉代子 編 (日本評論社)		<b>言語の脳科学</b> 酒井邦嘉 (中公新書)
	<b>手話の世界へ</b> オリバー・サククス著 (晶文社)		<b>言語を生み出す本能 上下巻</b> スティーブン・ピンカー著 棕田直子訳 (NHK ブックス)
	<b>デフアート絵本「手話で生きたい」</b> 乗富秀人 著・画 (生活書院)		<b>バイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること</b> 中島和子著 (アルク)

全国ろう児をもつ親の会 発行図書




	<b>ぼくたちのことばを奪わないで</b> (明石書店)	ろう教育の実態を明らかにしながら、ろう児の立場に立った教育とはなにかを提案する。バイリンガル教育の世界的権威 ジム・カミンズ (トロント大学教育大学院教授) の歴史的論文「声の否定」! 中島和子 (名古屋外国語大学教授) 訳による初日本語版収録。
	<b>ろう教育と言語権 ~ろう児の人権救済申立の全容~</b> (明石書店)	ろう・難聴児をもつ親のバイブル的存在となり、ろう者には、自分の言語についての認識を深める新たな一冊となるでしょう。ろう学校の教員、専門家、手話学習者も必読。「ろう教育」に関する最新の論文、情報を集めた貴重な一冊。
	<b>ようこそ ろうの赤ちゃん</b> (三省堂)	“聞こえなくてもだいじょうぶ” 目からウロコ、聞こえない子の楽しい子育ての本。新生児聴覚スクリーニング検査で、要検査 (リファア) とか、ろう、難聴ですと言われた赤ちゃんへ。ろうの子どもと暮らす家族が、心に残る日常生活をつづりました。
	<b>ろう教育が変わる! ~日弁連「意見書」と バイリンガル教育への提言~</b> (明石書店)	2005年2月に日弁連により出された「手話教育の充実を求める意見書」を掲載するとともに、法律、教育、言語、歴史等の様々な方面の専門家およびろう者自身の立場から、意見書の意義・問題点を分析。手話と日本語のバイリンガルろう教育のあり方を探る。
	<b>バイリンガルでろう児は育つ ~日本手話プラス書記日本語で教育を!</b> (生活書院)	「ろう児が日本手話と日本語のバイリンガルになるのが現状では最良の選択である」この共通認識の下、世界の言語学の権威が、手話言語のおかれた危機的状況や、言語の少数者としてのろう者と二言語教育の意義、手話言語学習が書記言語習得を阻害するのではなくむしろ相互に伸ばしあう関係にあること、など様々な視点で論じる。ろう児・ろう者の第一言語=手話の権利と、バイリンガルろう教育の方向を理論付ける必読の書。

おわりに

お子さんをどつちやって育てようかと考えるとき、「手話で育てる」という道も選択肢に加えてください。「手話で子育てする」ということは、「自分の子どもをありのまま受け入れる」という意味です。親に受け入れられた子どもは安心して素直に成長していきます。お子さんの成長に親御さんの手話のレベルはあまり関係ありません。逆に、手話が上手な親御さんでも、「聞こえるようになって欲しい」「手話より早く日本語を教えたい」と思っている子どもに接していると、なぜか子育てがうまくいきません。

私たちは、ろうの子どもが子どもらしく、周囲からのたくさんの方々の愛情を受けて、自分に自信をもって成長し、そして何より、お父さん、お母さんにとって子育てが楽しいものであって欲しいと願っています。一緒にろう児の子育てを楽しみましょう!

ろう児の乳児相談や子育て情報を提供している団体

	<b>特定非営利活動法人 バイリンガル・バイカルチュラル ろう教育センター (BBED)</b> <a href="http://www.bbед.org/">http://www.bbед.org/</a> TEL/FAX:03-5767-5057 〒143-0016 東京都大田区大森北 1-30-1 三喜屋ビル2階	日本で唯一、バイリンガルろう教育を研究・実践してきた団体。ろう児の子育て相談をはじめ、ろう乳児と一緒に参加できる手話教室などを開催。一般の小中学校を対象にろう者を紹介する総合学習プログラムや日本手話による絵本の読み聞かせDVDの貸出などを行っている。
	<b>学校法人明晴学園 「明晴学園 幼稚部・小学部」</b> <a href="http://www.meiseigakuen.ed.jp/">http://www.meiseigakuen.ed.jp/</a> TEL:03-6380-6775 FAX:03-6380-6751 〒140-0003 東京都品川区八潮5-2-1	ろう児の保護者とろう者が協力して08年4月に東京都教育特区として品川区八潮に誕生したバイリンガルろう教育の私立ろう学校。日本だけでなくカナダなど諸外国からも注目されている。「手話」日本語を教科として教えている。乳児教室や教育相談、学校見学ツアー (いずれも要予約) などがある。
	<b>全国ろう児をもつ親の会</b> <a href="http://www.haf.hi-ho-ne.jp/at_home/">http://www.haf.hi-ho-ne.jp/at_home/</a> FAX:03-3761-9905 〒100-8691 郵便事業株式会社 銀座支店 郵便私書箱70号	日本ではじめて聞こえない子を「ろう児」と呼んだ保護者の団体。会員制をとらず広くろう児の親を対象にHPや講演、出版物などで情報を提供している。ろう教育における「人権救済申立」をリードし日弁連に意見書を出させるなど、閉鎖的だった日本のろう教育に風穴を開ける。『ろう児の人権宣言』。

ろう者や手話に関するインターネット情報

<b>「ろう者で日本人で…」 木村晴美さんのブログ</b>	<a href="http://deaf.cocolog-nifty.com/">http://deaf.cocolog-nifty.com/</a>
<b>手話文法研究室</b>	<a href="http://slling.net/">http://slling.net/</a>
<b>北海道バイリンガルろう教育を推進する会 (HBED)</b>	<a href="http://blogs.yahoo.co.jp/hbed33">http://blogs.yahoo.co.jp/hbed33</a>